

日本学術会議 公開シンポジウム



食品安全分野における レギュラトリーサイエンスの役割と課題

日時:平成26年3月14日(金)13:30~17:00

場所:日本学術会議講堂 東京メトロ千代田線・乃木坂駅下車1分 **事前登録不要**

食品安全行政を進めるためには、科学的なデータや知見、手法の開発を支えるレギュラトリーサイエンスとよばれる新たな科学領域の確立が不可欠となる。日本におけるレギュラトリーサイエンスの確立と、専門人材の育成のために、多角的な視点から検討する。

入場
無料

開会挨拶 吉川 泰弘(日本学術会議会員、千葉科学大学)

解題 新山 陽子(日本学術会議連携会員、京都大学)

① リスク管理機関におけるレギュラトリーサイエンスの活用と
必要な人材の育成

山田 友紀子(元農林水産省)

② リスク評価からみたレギュラトリーサイエンスと専門人材の育成
小坂 健(東北大学)

③ リスクコミュニケーションからみたレギュラトリーサイエンスと
専門人材の育成

広田 すみれ(東京都市大学)

④ アカデミックサイドからみたレギュラトリーサイエンスへの取り組み
長澤 秀行(日本学術会議連携会員、帯広畜産大学)

総合討論

主催:日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会 合同
食の安全分科会、獣医学分科会

後援:農林水産省、厚生労働省

《問い合わせ先》 新山 陽子(京都大学大学院農学研究科) niiyama@kais.kyoto-u.ac.jp
立川 雅司(茨城大学農学部) 029-888-8615 mtachi@mx.ibaraki.ac.jp

日本学術会議公開シンポジウム開催要領

「食品安全分野におけるレギュラトリーサイエンスの役割と課題」

1. 開催趣旨

日本の食品安全行政は、2003年に食品安全基本法が制定され、関連行政組織が刷新されて以降、10年が経過した。この間、科学的知見にもとづきリスクを管理するためのリスクアナリシスの枠組みが導入され、リスク管理機関およびリスク評価機関により定着がはかれてきた。このような食品安全行政を進めるためには、科学的なデータや知見、手法の開発を支えるレギュラトリーサイエンスとよばれる新たな科学領域の確立が不可欠であり、関連する自然科学・人文社会科学の連携が必要とされる。あわせて、リスク管理機関、評価機関はもとより、事業者等においても、高度な専門能力をもつ人材の幅広い養成が必要であり、これら人材を養成する職業内研修および高等教育機関の役割が重要である。

食品安全行政における科学的知見の活用とそのあり方に関しては、食の安全分科会としても、レギュラトリーサイエンスの役割と課題についての提言として取りまとめてきたところである。わが国において、今後どのようにレギュラトリーサイエンスを確立し、専門人材の育成をはかるか、多角的な視点から検討する。

2. 日時：2014年3月14日（金）13:30～17:00

3. 場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

4. 主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同
食の安全分科会、獣医学分科会

5. プログラム

13:30～13:40 開会挨拶 吉川 泰弘（日本学術会議第二部会員、食の安全分科会委員長、
千葉科学大学副学長）

13:40～14:00 解題 新山 陽子（日本学術会議連携会員、京都大学農学研究科教授）

14:00～14:30 「リスク管理機関におけるレギュラトリーサイエンスの活用と必要な人材
の育成」 山田 友紀子（元農林水産省技術総括審議官）

14:30～15:00 「リスク評価からみたレギュラトリーサイエンスと専門人材の育成」
小坂 健（東北大学大学院国際歯科保健学分野 教授）

（15:00～15:10 休憩）

15:10～15:40 「リスクコミュニケーションからみたレギュラトリ-サイエンスと専門人材の育成」 広田 すみれ（東京都市大学メディア情報学部教授）

15:40～16:10 「アカデミックサイドからみたレギュラトリーサイエンスへの取り組み」
長澤 秀行（日本学術会議連携会員、帯広畜産大学学長）

総合討論（16:10～16:50）

（司会）新山 陽子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

閉会挨拶（16:50～17:00） 吉川 泰弘（日本学術会議第二部会員、食の安全分科会委員長、千葉科学大学副学長）

6 . 問い合わせ先

新山 陽子（食の安全分科会副委員長、京都大学農学研究科教授、
niiyama@kais.kyoto-u.ac.jp）

立川 雅司（食の安全分科会幹事、茨城大学農学部教授、mtachi@mx.ibaraki.ac.jp）